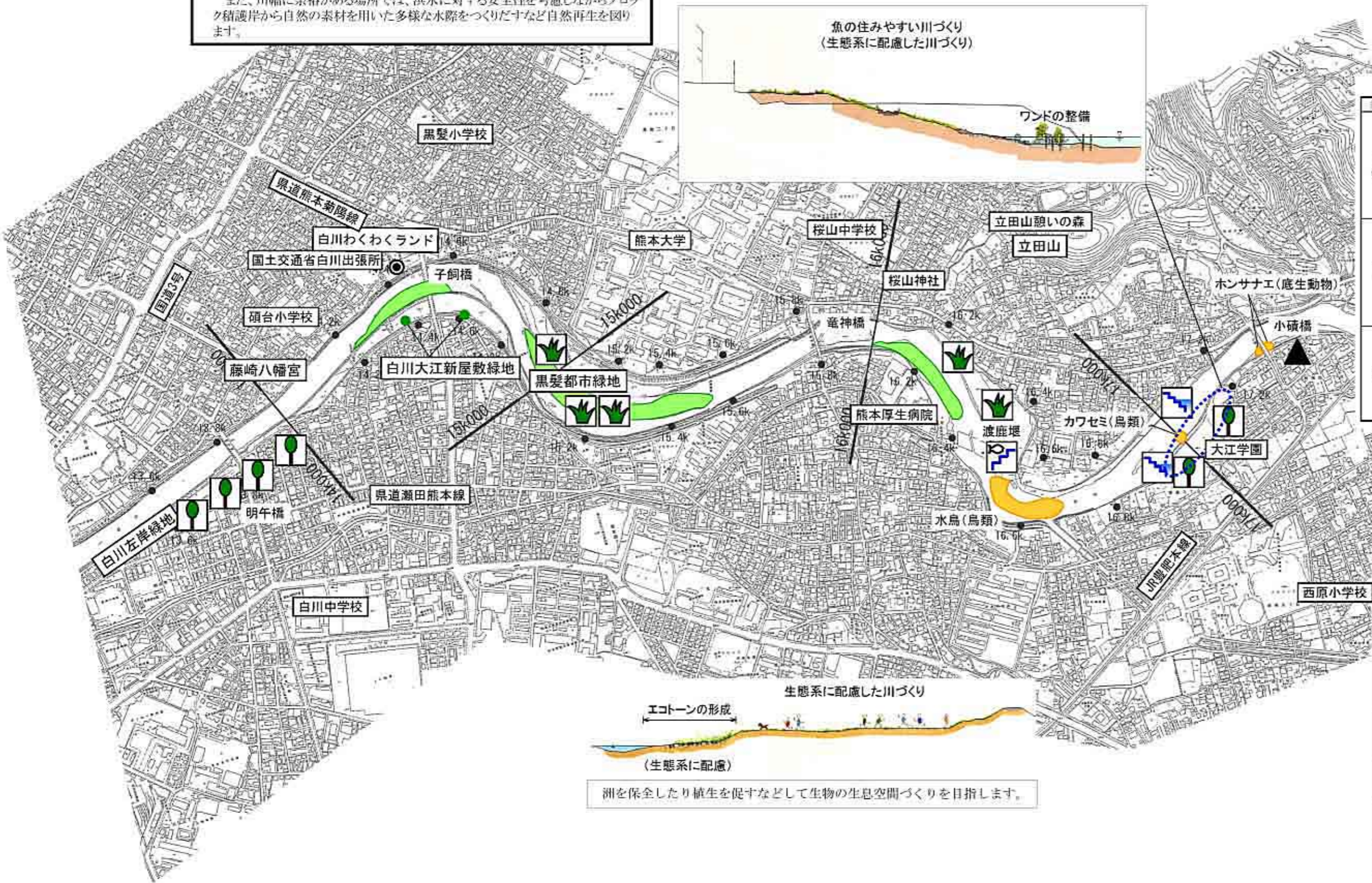
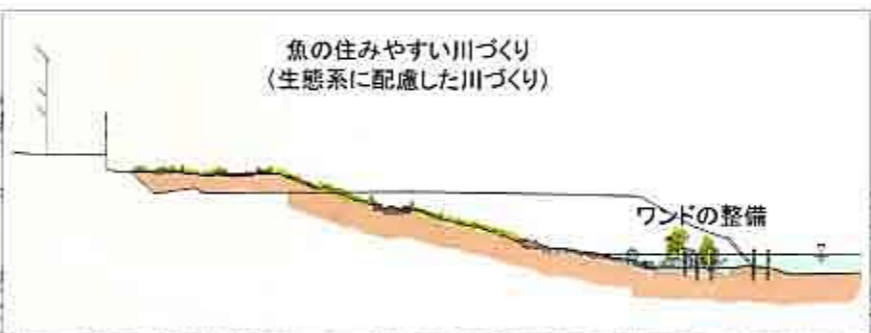




小碓橋～子飼橋付近

流れの急な中流部から熊本市の中心部へとつながる区間です。河道は蛇行をしながら流れ、瀬と淵をつくりだしています。また、子飼橋付近左岸、熊本大学前、熊本厚生病院前、などの水当り(湾曲)裏側には洲が発達して水辺はなだらかな傾斜をつくりだしています。このような自然がつくりだした淵やなだらかな斜面を保全して、魚の棲みやすい環境を守ります。水当り(湾曲)裏側の洲などには、地域の住民や学校などからの要望を基に、植生を促すなどして、生物のための水際から陸側へつづく多様な生息空間をつくりだします。また、川幅に余裕がある場所では、洪水に対する安全性を考慮しながらブロック積護岸から自然の素材を用いた多様な水際をつくりだすなど自然再生を図ります。



住民の主な意見の反映

多数寄せられた意見の集約	特に具体的な意見
自然や生物に配慮した整備を望む	子飼橋をよく通るが、そこから見える白川が大好きだ。福岡出身だが、こっちへ来て川が身近に感じられるようになった。動植物がたくさんいる川になるといいと思う。護岸のために魚の生息場所が減っている。護岸の撤去をし、自然の環境に戻すことが望ましいのだが、無理であれば魚道を早急に作ることを望む。
樹木を残して樹木を増やして	子飼橋から下流を眺めると右岸の大木がすっかり少なくなった。洪水や台風が怖いだろうが、以前のように鬱蒼と川面に影を落とす姿に戻らないものかと思う。左岸子飼橋上部にもできれば植樹してもらいたいと思う。渡鹿塚など、水が多いところに魚のコロニーがあるので、森を多く残して欲しい。
自然を回復して欲しい	小中学生時代に罾で釣りをしたことが懐かしく、魚の釣れる川に戻って欲しい。これは行政の方でなければ絶対に出来ないと思う。川べりで季節ごとに渡り鳥が来たり、川の匂いがあったりしてとても風情があった。自然の残る白川であってほしいと思う。

凡例	解説	備考
	洲の保全 (生態系に配慮)	水際から陸地をつなぐなだらかな洲を保全します。水辺に近づきやすい空間としても活用できます。
	植生群	水当り裏側の洲に植生を図り、生物の生息空間をつくります。事業主体について、地域や自治体と調整を図り、洪水に対する安全性を確認しながら取り組みます。
	樹木群	川幅に余裕がある場所では樹木を保全し、野鳥の飛来する場をつくります。
	階段護岸	洪水に対する耐力があり、親水性に配慮した護岸です。
	魚道	渡鹿塚に魚道を設置することを検討します。堰の管理者との調整を図りながら取り組みます。
	水質観測所	水質を観測して結果を公表し、水質向上の意識を高めます。
	保全対象生物	保全が望まれる生物です。

河川整備計画図(河川環境)